

クラブインフォメーション



発行:(公財)鳥取県スポーツ協会 〒680-8570 鳥取市東町1丁目220番地 鳥取県議会棟別館内



TEL:0857-26-7802 FAX:0857-26-8133 E-mail:tabuchi-h@sports-tottori.com 令和5年10月 第170号

令和5年度鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア 中部サテライトセンター整備事業:倉吉サンリンク・スポーツ



ことごとくジャンケンに負ける石賀さん
(向かって右)



コントロールの良い八島さん



今日はちょっと不調の舟木さん

令和5年9月1日(金)・15日(金)、倉吉サンリンク・スポーツ主催の「令和5年度鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア中部サテライトセンター整備事業※1」で「ボッチャ※2」と「ラダーゲッター※3」が倉吉市営体育センターで開催されました。

※1 目的:鳥取県中部地区において、障がい者が気軽にスポーツをすることができる環境の整備を行い、障がい者のスポーツ実施をサポートする。障がい者スポーツ教室を実施することにより、それをサポートする人材を育成する。障がい者と健常者、子どもから高齢者まで、誰もが共に気軽にスポーツを楽しめる環境を整備、提供を行う。

※2 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

※3 ラダーゲッターは、両端にボールがついたヒモを、ラダー(はしご)に向かって投げるゲームです。ボールがラダーに引っ掛かるとポイントになり、そのポイントを競います。21点先取したプレーヤーが勝ち。

ボッチャは一人ひとり決められたスローイングボックス内で投球する方法で行い、総当たり戦で1試合4エンド、優勝決定戦は6エンドで行いました。役員チームでも参加しましたが全敗。皆さんのレベルの高さに脱帽です。

ラダーゲッターは、ボールの振り方、角度、力加減が難しく、ラダーに引っ掛かって上手く絡まず落ちてしまうこともあり、集中して投球しました。両サイドから見られながらの投球だったので、少し緊張されたかな。



両サイドから見られて緊張する～



凄い!全部のラダーにハンクしました。

連絡先 倉吉サンリンク・スポーツ事務局 杉谷 哲治
TEL:090-6436-9196 E-mail:sanrink_sugi@yahoo.co.jp

令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業：(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ



いつも笑顔で投げる保育園の女の子



プロ級の腕前の小学3年生の女の子



覚醒したお母さん

令和5年9月9日(土)、伯耆町総合スポーツ公園アリーナで、(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ主催の「県民まるごとスポーツ推進事業：親子deスポーツ※1」(県スポーツ協会補助事業)で「モルック※2」を実施しました。

※1 目的:子育て世代の県民が、身近な地域において子どもと一緒に運動・スポーツに親しむ事業の提供を通じて、県民のスポーツへの意識の高揚を図り、もって本県スポーツ振興を推進する。

※2 モルックとは、モルックと呼ばれる木の棒を投げて、スキttl(木製のピン)の倒れた合計得点が50点ピッタリに得点したチームが勝ちとなるゲームです。

最初に簡単にルール説明を行い、後は実際にプレーしながら覚えていただきました。地域の運動会と重なり、参加が少なかつたため、事務局も入ってゲームを行いました。

女の子のお母さんは初めてモルックを体験されましたが、初めてと思えないくらい豪快且つ正確で、倒れるピンの本数も多く、また、狙ったピンをことごとく倒す正確性には驚きました。

保育園の女の子も、チームのピンチを何度も救い、ほぼピンに当てられるくらい上手で、いつもニコニコ楽しそうにプレーしてくれました。

小学3年生の女の子も、最初調子が出なかったものの、ゲームが進むにつれ本来の力を発揮し、見事にピンを倒していました。

事務局の西村さんは要所要所でいい仕事をされ、瀧田さんもピンポイントで命中させることもしばしば。皆さんレベルが高かったです。

とても盛り上がり、思う存分楽しんでいただきました。

モルックってどんな競技?と知らない人がたくさん居られます。誰でも気軽にでき、誰とでもチームを組んでゲームが楽しめるスポーツです。一度体験してみてください。

【参加者の声】

☆初めてでしたが面白かったです。今度、パパと一緒に大会に出てみたい。



狙い通りに当てる西村さん



いつになく真剣な瀧田さん



表彰です。

連絡先
(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ事務局
西村 香緒里
TEL:0859-68-3775
E-mail:h.smiley.sports@gmail.com

令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業：(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ



子どもを膝に乗せて起き上がる



進化ジャンケンゲーム



小さくなった新聞紙の上でジャンケン

令和5年9月23日(土)、(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ主催の「県民まるごとスポーツ推進事業：親子deスポーツ※」(県スポーツ協会補助事業)で「親子で楽しい運動遊び教室」を、伯耆町総合スポーツ公園2階トレーニングルームで開催しました。

※目的:子育て世代の県民が、身近な地域において子どもと一緒に運動・スポーツに親しむ事業を通じて、県民のスポーツへの意識の高揚を図り、もって本県スポーツ振興に推進する。

【指導者】 友田 真由美さん

【参加者】 大人21名、子ども18名

【内容】 ・ウォーミングアップ
・ジャンケンゲーム



新聞スケート



新聞を飛び越える



同じポーズで10秒キープ

【内容】 ・新聞紙を使用した跳び箱運動に繋がる動作
・新聞紙を段々小さくしていき、親子でバランスを保ち(静止して10秒キープ)ながら、どこまでできるか。



新聞フリスビーを飛ばす



固定したフラフープをぐるぐる



転がっているフラフープをぐるぐる

【内容】 ・新聞を丸めてボールを作り、大小のフラフープを大人が両サイドに広げて持ち、子どもがフラフープの穴めがけて投げる。10回通したらゴール
・新聞を円盤の形に整えてフリスビーの要領で投げて、誰が一番遠くに飛ばせるか。
・大人が大小のフラフープを両サイドの床におき、全部のフラフープをぐるぐる。
・大人が縦に並び順番に転がしていき、転がってきたフラフープをどんどんぐる。



10回跳ぶ



前転をする



バランスストーンを渡る

- 【内 容】
- ・3グループに分け、親子で手をつないで、床に散らばっている小さなボールを片手でつかめるだけ掴む→床に置かれた小さなフラフープの穴に入れる。→トランポリンでジャンプを10回→バランスストーンを渡る。→手を繋いでゴール→次の人にバトンタッチ。どのチームが早くゴールできるか。
 - ・親が子どもを抱っこした状態で、床に置かれたフラフープを体の上から通す。→トランポリンを10回跳ぶ。→マットの上で子どもが前転→子どもを抱っこしてバランスストーンを渡る。→抱っこしたままゴールを目指す。→次の人にバトンタッチ。どのチームが早くゴールできるか。
 - ・クールダウン

【参加者の声】

- ・子どもと一緒に楽しく身体を動かし、目一杯子どもと楽しめました。

こまめに水分補給をしながら、様々な道具・用具を使って、目一杯頭と身体を動かしました。運動会の様に盛り上がった運動遊び教室でした。

次回は、令和5年11月11日(土)、25日(土)9時30分～11時30分です。たくさんのご参加お待ちしております。

連絡先
(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ事務局
西村 香緒里
TEL:0859-68-3775
E-mail:h.smiley.spotrs@gmail.com

令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業：青谷スポーツクラブ



【ボッチャ体験】



【モルック体験】

令和5年9月10日(日)、青谷町体育館で青谷スポーツクラブ主催の「県民まるごとスポーツ推進事業：みんな de ユニスポ※1」(県スポーツ協会補助事業)で「あおやまるごとスポーツ体験会」で、「ボッチャ※2」「モルック※3」「ラダーゲッター※4」「フロアグラウンド・ゴルフ※5」を実施しました。

- ※1 目的：年齢・性別・障がいの有無にかかわらず気軽にスポーツを楽しむ事業の提供を通じて、県民のスポーツへの意識の高揚を図り、もって本県スポーツ振興を推進する。
- ※2 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに目標球に近づけるかを競います。(ペンタングの室内型に類似)
- ※3 モルックは、モルックと呼ばれる木の棒を投げて、スキttl(木製のピン)の倒れた合計得点が50点ぴったりに得点したチームが勝ちとなるゲームです。(発祥地はフィンランド)
- ※4 ラダーゲッターは、両端にボールがついたヒモを、ラダー(はしご)に向かって投げるゲームです。ボールがラダーに引っ掛かるとポイントになり、そのポイントを競います。21点先取したプレーヤーが勝ち。
- ※5 フロアグラウンド・ゴルフは、室内で専用のクラブ・ボール・スタートマットを使用して、ボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を数えます。

【指導者】 杉谷 哲治さん(倉吉サンリンク・スポーツ代表理事)

【参加者】 13名

今回は、スポーツ体験だけではなく、ルールやスコアのつけ方、準備から片付けまで参加した人に関わっていただき、クラブ運営の手順・やり方を体験していただきました。

どの種目も真剣且つ楽しく取り組んでいただき、たくさんの競技を知っていただくことができました。

誰でも気軽にできるスポーツなので、初めてでも安心して体験することができます。

今回体験した種目を各地区に持ち帰っていただき、スポーツの普及に取り組んでいただけると嬉しいです。

また、倉吉サンリンク・スポーツの杉谷さんにご指導いただき、クラブ間の横の繋がりも持てました。

いろいろな所で、いろいろな形で鳥取県内のクラブが繋がって行くといいですね。



【モルック体験】



【ラダーゲッター体験】



連絡先
青谷スポーツクラブ事務局
安達 富由樹
TEL:090-8716-2988
E-mail:xc434323@ya3.so-net.ne.jp

令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業:にちなんスポーツクラブ



スキttlを並べます



一投目投げます



ピンポイントで狙います

令和5年9月13日(水)、にちなんスポーツクラブ主催の「県民まるごとスポーツ推進事業:みんなdeユニスポ※1」(県スポーツ協会補助事業)で「放課後運動あそびクラブ」を、日南町体育館で開催しました。

※1 目的:年齢・性別・障がいの有無に関わらず気軽にスポーツを楽しむ事業の提供を通じて、県民のスポーツへの意識の高揚を図り、もって本県スポーツ振興を推進する。

【内 容】モルック※2、ボッチャ※3、パルクールバー※4

【参加者】小学2・3年生

※2 モルックは、モルックと呼ばれる木の棒を投げて、スキttl(木製のピン)の倒れた合計得点が50点ぴったりになり得点したチームが勝ちとなるゲームです。

※3 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

※4 バランス感覚を養うための用具

参加した4名の小学生に、最初にモルックを体験してもらいました。簡単なルール説明の後は実際にプレーしながらルールを覚えてもらいました。ゲームは子どもVS大人で3ゲーム行い、2勝1敗で大人が勝利しました。

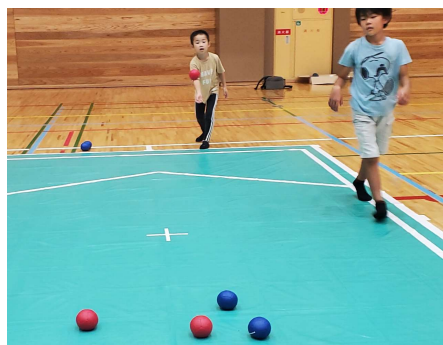
次にボッチャを体験してもらいましたが、3勝0敗で大人の圧勝。子どもたちは勝つまでやりました。

最後に、パルクールバーと呼ばれる単管パイプで作ったバーを使って、平均台の様にその上を歩きました。

今回も子どもたちの有り余るパワーと、モルックの用具を使って新たなゲームを考案する頭の柔らかさにも驚きました。

どうしたら子どもたちが楽しくスポーツをしてくれて、自然と運動能力が養われる運動ができるかを、常に考えながら取り組むスタッフに頭が下がります。

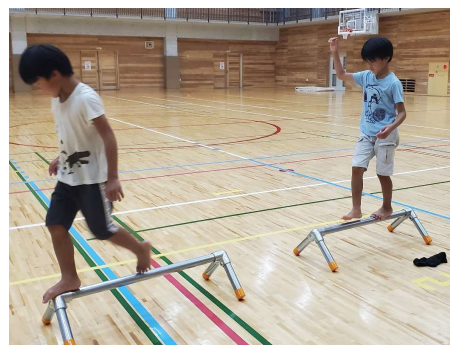
子どもたちの能力は無限です。地域で子どもを育てていきましょう!



ジャックボール目掛けて投げます



足羽さんから得点方法を聞きます



パルクールバーを歩きます

e

連絡先
にちなんスポーツクラブ事務局
足羽 覚
TEL:090-8606-3135
E-mail:nichinan.sc@gmail.com

令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業：倉吉サンリンク・スポーツ



杉谷さんからルール説明



初めての投球、みんな表情が硬い



いい勝負です

令和5年9月26日(火)、倉吉サンリンク・スポーツ主催の「令和5年度県民まるごとスポーツ推進事業：みんなdeユニスポ※1」(県スポーツ協会補助事業)で「ボッチャ※2」を学校法人松柏学院倉吉北高等学校体育館で開催しました。

※1目的:年齢・性別・障がいの有無にかかわらず気軽にスポーツを楽しむ事業の提供を通じて、県民のスポーツへの意識の高揚を図り、もって本県スポーツ振興を推進する。

※2 ボッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

今回は、倉吉北高等学校の3年生で「スポーツ類型」の授業を選択した11名(内1名は見学)の生徒に体験していただきました。

ボッチャは知っていると答えた生徒は2名でしたが、今日初めて体験する生徒ばかりでした。

最初に杉谷さんからルール説明を受けた後、生徒を3人×2グループと2人×2グループに分け、1ゲーム4エンドで、対戦相手を変えて2ゲーム行いました。

2ゲーム目からは2人の先生も生徒2人のグループに加わり一緒に対戦しました。

対戦するまでは、説明を聞いても「どんなスポーツなんだろう?」という雰囲気でしたが、試合をやり始めるとその面白さに気づいてくれました。チームで作戦を立てて、どこに置きにいかか、どの球を弾くか、いかにジャックボールに近づけるか真剣に取り組んでくれました。最初は力加減や方向感覚が定まりませんでしたが、すぐにコツを掴み、すぐにも大会に出場できるくらいのレベルまで上手くなりました。さすが若さですね。

予想以上に盛り上がりすぎて、ボッチャの楽しさをわかってもらえたようです。

最後に生徒の代表が、「ルールも簡単だし、奥が深い競技でとても楽しくプレーすることができました。ありがとうございました。」と挨拶してくれました。

また、ユニバーサルスポーツを体験してもらって、楽しさを多くの人に広めてもらえると嬉しいです。



近づけることができるか〜!!



あそこを狙うんだよ!



みんなで見守る

連絡先
倉吉サンリンク・スポーツ事務局
杉谷 哲治
TEL:090-6436-9196
E-mail:sanrink_sugi@yahoo.co.jp

彼岸花ウォークin南部町:スポnetなんぶ



5kmコース スタート



土手沿いを歩きます。



牛舎が見えます。

令和5年9月18日(月・祝)、スポnetなんぶ・南部町観光協会主催で「彼岸花ウォーキングin南部町」が法勝寺まごころ市を発着として開催されました。

【コース】 Aコース(健脚) 11km(旧法勝寺電車道～赤猪岩神社～法勝寺土手)
Bコース(ファミリー) 5km(客(ブロッコリー)神社～グリコ～法勝寺土手)



客(ブロッコリー)神社



梨のエイドステーション



フォトポイント

当日は気温30度を超える暑い日でしたが、町内外から子どもから高齢者まで多くの方(86名)に参加いただきました。

9時15分、11kmコースが先にスタートし、少し遅れて5kmコースがスタートしました。

法勝寺川土手をしばらく歩き、そこを抜けると辺り一面に広がった田園風景の中に、ポツンと立つ神社「客神社」があり、まるでトトロの世界に来たようでした。その客神社で少し休憩した後、対岸の法勝寺川土手を歩いていると、梨のエイドステーションがあり、参加者は美味しい梨に舌鼓を打ちました。エイドステーションの近くまで歩きようやく彼岸花が咲くエリアに到着、例年のようにあたり一面が真っ赤に色づく状態ではありませんでしたが、参加者は彼岸花を「パシヤリ！」写真に収めました。赤い彼岸花が咲くその傍で黄金色に咲く彼岸花を発見し感動！

ゴール後は、受付でゼッケンナンバーを報告し、完歩賞のカレーライスをいただきました。抽選で南部町の特産品が当たる「ラッキープレゼント」もあり、盛り上がりました。

ウォーキングで心地よい運動ができ、新たな地元の発見があったり、参加者同士のコミュニティが生まれたり、楽しい時間を過ごすことができました。初めて出会った方と一緒にカレーライスをいただき、色々なお話をすることができ、記憶に残るウォーキングになりました。運営スタッフの方々お疲れ様でした。



黄金色の彼岸花!!!



完歩賞のカレーライスをいただきます



特産品当たりました！

連絡先
スポnetなんぶ事務局 板 真悟
TEL:0859-66-5400
E-mail:shiawase01@suponetnanbu.com

芝生化お披露目イベント にちなんスポーツクラブ&(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ



ラダーゲッター



モルック



飲食ブース

令和5年9月30日(土)、日南町教育委員会主催の「芝生化^{※1}お披露目イベント」が日南町総合文化センター野外イベント広場で開催されました。

オープニングでは、地元ダンススクールのNDS^{※2}(にちなんダンススクール)によるダンスが披露され、キレッキレのダンスに会場全体が引き込まれました。

- ※1 広場はこれまでレンガ敷でしたが、より幅広い世代がくつろげる空間にしようと、住民有志による団体「日南・芝生プロジェクト」が発足し、住民らの協力も得て県の補助金を活用して広場のほとんどにあたる約2000平方メートルに「鳥取方式」で芝生を植栽
- ※2 2023米子がいな祭りダンスコンテストで準優勝(がいな祭り賞)

広場ではジェラートや焼きそばなどの飲食ブースが立ち並び、来場した人は美味しいものをいただきながら、芝生の上でのんびり過ごしました。

芝生アトラクションとして、にちなんスポーツクラブからは「モルック」と「ラダーゲッター」、(一社)ほうきスマイリースポーツクラブからは、バランスボールやフラフープ、マット、コーン、段ボールなどを使って運動遊びを提供しました。

ラダーゲッターは簡単そうに見えて、なかなかラダーに引っ掛からなくて苦戦していましたが、段々と引っ掛かるようになって嬉しくて何度もトライしていました。

モルックはチーム戦で対戦しましたが、50点ぴったりにゴールするのが難しく「これ永遠に終わらないんじゃない!」という声もありつつ、時間一杯チャレンジしてくれました。

様々な用具を使った運動遊びでは、運動会さながらの種目もあり、全身をくまなく使って身体を動かしました。

家族でまたは友達同士で足を運んでいただき、美味しいものを食べて、思いっきり身体を動かしてリフレッシュしていただきました。

また、このような機会を作っていただけるといいですね。



バク転の練習



バランスボールを蹴りながら走る



コーン取り

連絡先
にちなんスポーツクラブ事務局
足羽 寛
TEL:0859-83-1007
E-mail:nichinan.sc@gmail.com

連絡先
(一社)ほうきスマイリースポーツクラブ事務局
西村 香緒里
TEL:0859-68-3775
E-mail:h.smiley.sports@gmail.com

令和5年度鳥取県総合型地域スポーツクラブ指導者派遣事業研修会を開催しました



研修会の様子

令和5年9月3日(日)、県立倉吉体育文化会館で「令和5年度鳥取県総合型地域スポーツクラブ指導者派遣事業研修会※1」を開催しました。

※1目的 総合型地域スポーツクラブが抱える運営の安定化、指導者不足と育成等の問題の解消を図り、クラブの持続可能な運営を目指すこと及び部活動改革など総合型地域スポーツクラブを取り巻く状況、方向性について学ぶ。

【講 師】 松田 雅彦氏(大阪教育大学附属高等学校 平野校舎教諭)

【参加者】 後藤弥さん・西村香緒里さん(ほうきスマイリースポーツクラブ)、板真悟さん(スポnetなんぶ)、杉谷哲治さん(倉吉サンリンク・スポーツ)、語堂正範さん(鳥取県議会議員)、河本昌也さん・福田和志さん(倉吉市スポーツ推進委員協議会)、佐藤義和さん・下屋敷亘太郎さん・植木敏郎さん(倉吉北高等学校)

【内 容】

《午前の部 講演「部活動の地域連携の在り方」》

部活動の塾化or学校から切り離して地域クラブ活動とする仕組みをつくる or 学校と地域が一緒になって子どもたちを育てる仕組みをつくるのか、課題はゴール設定である。

地域部活動導入によるメリット、学校管理下でなくなる意味、地域部活動制度の導入後具体的にどう変わるのか、官民公私の関係と行政および地域クラブの立ち位置、受け皿団体のタイプ、運営団体・実施主体と活動範囲、卒業生との継続的な関係づくり(部活動を塾化させないしくみ)、ひらの倶楽部のしくみ(学校の内部からの改革)、学校を地域へ広げる中間組織としてのクラブ、生徒のニーズは？部活動の質的改革、生徒会の自治(クラブ)化、学校と受け皿の関係性、指導者の派遣という発想から指導者を育てること、法人化、コンピテンシー(能力)ベース※2の学習等、とても参考になるお話を聞くことができました。

※2 学校での多くの時間は時間ベースの学習です。コンピテンシーベースの学習環境では、単元は、学生がコンピテンシーになる特定のスキルと知識に分割され、時間の経過ではなく、レッスンの完了に基づいてコンピテンシーを評価します。

《午後の部 ワークショップ》

KJ法※3とロジックツリー※4を用いた課題学習

※3 KJ法とは、断片的な情報やアイデア効率よく整理する手法で、付箋などに一つひとつ情報を書き込み、その付箋を並べ変えたり、グループ化することで情報整理する。

※4 ロジックツリーとは、問題をツリー状にどんどん分解し原因や解決法を探す方法

参加者を「学校内に組織を作り外へと広げる受け皿団体」と、「学校と学校外組織が補助・連携・協働関係をつくる受け皿団体」のグループに分かれ、それぞれのメリット・デメリットをできるだけ多く付箋に書き出し、グループ化し、何が一番重要課題か、誰がいつ取り掛かるのか具体的に意見を出し合いました。

「先生と総合型クラブの業務は、生徒は学校を卒業したらスポーツができない環境にあるため、学校と地域を切り離さない！」と松田先生が言われた言葉が心に残りました。

この研修会後は、このワークショップの内容を他の仲間と共有することが必要です。即行動に移しましょう！



ワークショップの様子

令和5年度鳥取県総合型地域スポーツクラブ指導者派遣事業研修会を開催しました



研修会の様子(南部町天萬庁舎3階富有まんでんホール)

令和5年9月22日(金)、「富有まんでんホール」(南部町天萬庁舎3階)で「令和5年度鳥取県総合型地域スポーツクラブ指導者派遣事業研修会*」を開催しました。

※目的 総合型地域スポーツクラブが抱える運営の安定化、指導者不足と育成等の問題の解消を図り、クラブの持続可能な運営を目指すこと及び部活動改革など総合型地域スポーツクラブを取り巻く状況、方向性について学ぶ。

【対象クラブ】 スポnetなんぶ

【講師】 松田雅彦氏(大阪教育大学附属高等学校平野校舎教諭)

【内容】 講義:「学校部活動の地域連携の在り方～その現状と課題～」
質疑応答

【参加者】 スポnetなんぶ役員、南部町・伯耆町学校部活動在り方検討委員、学校関係者、西伯郡スポーツ協会理事

□講義内容

- ・学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン概要
- ・運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要
- ・学校の働き方改革を踏まえた部活動改革概要
- ・運動部活動の地域連携の課題と二者択一の選択肢
- ・地域クラブ活動導入によるメリット・学校管理下ではなくなる意味・具体的にどう変わるのか
- ・運営団体・実施主体と活動範囲
- ・受け皿団体(運営団体・実施主体)のタイプ
- ・官民公私の関係と行政および地域クラブの立ち位置
- ・スクール・コミュニティ*ひらの倶楽部の取り組み

学校を卒業しても部活動は卒業しなくても良いしくみ・部活動を塾化しないしくみ・学校の内部からの改革・学校を地域へ広げる中間組織としてのクラブ・生徒会の自治化等、ひらの倶楽部が目指したしくみ・取り組みについて具体的に伺うことができ、学校部活動の地域連携の参考になったのではないのでしょうか。

地域と連携しながら、今よりより良い運動・文化活動ができる環境の構築を目指して取り組んでいけると良いですね。